

平成 27 年度第 2 回 周南市地域公共交通会議議事録

1. 日時 平成 27 年 8 月 17 日 14 時 00 分～15 時 55 分

2. 場所 キリンビバレッジ周南総合スポーツセンター カルチャールーム

3. 出席委員：14 名

団 体 名	委 員 名
周南市 環境生活部長	野崎 俊明
中国運輸局 山口運輸支局	宗像 恵太郎
防長交通株式会社	牧 洋史
西日本旅客鉄道株式会社	保見 孝好
大津島巡航株式会社	中村 浩二
周南市自治会連合会	中村 利孝
周南市老人クラブ連合会	原田 邦昭
周南市障害者団体連合会	徳毛 裕之
鹿野地区女性団体連絡協議会	有國 美恵子
私鉄中国地方労働組合防長交通支部	積 敏幸
周南警察署	別府 利宏
中国地方整備局 山口河川国道事務所	丹後 浩一
山口県 商工労働部 交通政策課	浜口 和彦
徳山工業高等専門学校	古田 健一

4. 欠席委員：3 名

団 体 名	委 員 名
徳山地区タクシー協会	清水 延隆
光警察署	岡村 孝之
山口県 周南土木建築事務所	重本 和生

5. オブザーバー：1 名

団 体 名	オブザーバー名
周南市 都市整備部 都市計画課	有馬 善己

6. 事務局：環境生活部 生活安全課
バイタルリード株式会社

7. 報告事項

- (1) 周南市地域公共交通網形成計画策定支援業務委託に係る公募型プロポーザルの結果について

8. 議 題

- (1) 地域公共交通網形成計画の策定方針について (資料1)
- (2) 周南市の現況と計画策定にあたっての検討課題について (資料2)
- (3) 住民アンケート調査の実施方針について (資料3)
- (4) 自家用有償旅客運送の登録申請について (資料4)

9. その他

- (1) 第1回中山間生活交通検討会の報告について (資料5)

1 開会

- 事務局 それでは定刻となりましたので、ただ今より平成27年度第2回周南市地域公共交通会議を開催いたします。
- なお、本日の会議につきまして、周南市地域公共交通会議規約第7条第2項の委員の過半数の出席が本日はございますので、成立していることをご報告いたします。
- 議題に入ります前に、委員の変更がありましたのでご報告いたします。徳山駅長、佐々木敏範様が転勤されましたので、後任でございます保見孝好様にお願いしております。よろしくお願いいたします。

2 会長挨拶

- 事務局 それでは、次第に沿いまして議事を進めさせていただきます。野崎会長、よろしくお願いいたします。
- ◎会 長 本日は、周南市地域公共交通会議にご多忙中にもかかわらずご出席賜りまして、本当にありがとうございます。

3 協議事項

- ◎会 長 それでは、早速、議事に入ります。次第3の協議事項です。報告事項の(1)周南市地域公共交通網形成計画策定支援業務委託に係る公募型プロポーザルの結果について、事務局から説明をお願いします。

3-1 報告事項

- 事務局 (プロポーザルの結果報告)

(業務委託会社挨拶)

- 事務局 それでは、よろしくお願いいたします。
ご報告につきましては、以上でございます。
- ◎会長 ただいまの件につきまして、何かご質問等がありますでしょうか。
(質問等なし)

3-2 議題

- ◎会長 それでは、本日の議題に移ります。
議題(1)から(3)までは関連しておりますので、(3)の説明が終わりました後、一括して審議したいと思います。なお、質疑につきましてはそれぞれの議案ごとにお受けしたいと思います。よろしくお願ひします。

3-2-1 周南市の地域公共交通網形成計画の策定方針について

- ◎会長 それでは、まず議題(1)、地域公共交通網形成計画の策定方針について、説明をお願いします。

●事務局 (資料に沿って説明)

- ◎会長 今の説明につきまして何かご質問、ご意見等がございましたら、お願いします。

- 委員 アンケート調査の中に高校生のアンケート調査が含まれています。
このアンケートはこれまで実施されたことがあるのでしょうか。

それと高校生ではないですが、若年層でハンディを持っていて鹿野方面から新南陽の作業所に通われている方のご家族から、バスで通うのは金銭的にも非常に負担であると聞いています。作業所が鹿野にはないから新南陽のほうに通うわけで、その交通の支援も考えていかななくてはいけないのでは。そういう人たちにもアンケートをしていけたらよいのではと考えています。

- 事務局 ご意見、ありがとうございます。

弊社はこのような計画策定に取り組まさせていただいている中で、高校生にはかなり潜在的なニーズがあると思っています。高校生アンケートは弊社がやる業務ではかなりの割合で実施しており、高校を通じて直接生徒さんとその保護者に配布しておりますので、回収率もかなり期待できると思います。

- 事務局 周南市におきまして、高校生に対するアンケート調査は、例えば八代地区などの地域ではやったことがあるのですが、今回のように周南市全体を通じたアンケートは初めてのことになります。

作業所のアンケートについても、状況を把握しながらできる限り計画に反映させていくようにしたいと考えています。

◎会 長 よろしいですか。

○委 員 はい。

○委 員 「計画に位置付ける事業の検討」というところですが、「わかりやすい情報提供に関する検討」というところは、先に言われたように、障害者といっても聴覚、視覚など様々な種類があるため、多様な情報提供が求められます。一般の公共交通利用となると高齢者や高校生が中心となるかとも思われ、いろいろな角度の情報提供について整理するのは大変だろうし、こちらも不安です。

ただ、交通事業者に関して努力してほしいなということは多々あります。行政からの提案はあるのでしょうか。情報が多様化している分、できている所もまだ不足している所もあると思います。

そして、「モビリティ・マネジメント」というのはどういうことでしょうか。具体的にイメージがつかめないのですが。

●事務局 先に最後の質問からよろしいですか。今、周南市の住民の皆さんは、移動手段といえばマイカーを使われる方がかなり多いと思います。みんながマイカーを好きなように利用するだけでなく、公共交通を利用できるときには利用しないと、将来的に地域の公共交通を続けることができなくなってしまいます。それを理解してもらい、住民の皆さんに少しでも自発的に公共交通に乗っていただけるようなコミュニケーションを取るという施策のことをモビリティ・マネジメントといいます。

その情報提供をするにあたって、通勤者あるいは通学の高校生などで、公共交通を使うにあたって必要とされている情報は違います。皆さんにとって有益な情報をピンポイントでターゲットを絞って発信しないと、なかなか公共交通には乗っていただけないということで、そのあたりを丁寧にコミュニケーションする必要があります。

最初の、障害者にニーズがある情報提供をどのように今回の計画でやるべきか、ということに関して、さまざまな情報を具体的に整理することももちろん重要なのですが、この1年で事業を全て進めるのは恐らく難しいと思います。今年度は今回の計画でどのようなことをしますという宣言的なものをまとめることが重要だと考えています。その後は、具体的にどういった情報提供の改善ニーズがあるのかということ踏まえて、どの実施主体がどのように進めていくのかを検討して盛り込み、具体的に進めていく、というようなものになります。

○委員 防長交通から先ほどのご質問に対してですが、障害を抱えていらっしゃる方に対して、点字を使ったものや音声を使った誘導など、さまざまなものがあることは認識しています。ただ、自力だけではなかなか施設的な整備は進んでいないというのが正直なところです。

このような委員会の中で決められた整備の方向性に対し、当然地域の交通として一緒にやらせていただくことを考えております。そういう意見交換の場と認識しておりますし、極力、反映はしていきたいと思っています。

また、モビリティ・マネジメントというのは片仮名で難しいですが、交通手段を1つに偏ることなく公共のものも導入して、全体の中で都市の活性化にもっていくためにはどうしたらいいかというのを啓蒙しようという考えだと思います。それについては当社も微力ながら少しずつ行っています。

例えば病院への案内、またはお祭りの時の案内など、さまざまなモデルルートや時刻表を作るということを実施しています。このような例もご紹介しながら、更にこういうことをしたらどうかというのをこの場で皆さんとお話しさせていただけたら、と思っています。

情報提供については、英語の表示が足りない、音声放送を改善したほうがいいなどの意見は出てくるだろうと私たちも感じているので、またご相談させていただこうと思います。ただ、残念ながら運転士が不足しており、加えて全車がバリアフリーに対応しているわけではないという現実もあります。例えば目のご不自由な方が乗車してこられた場合、運転士が全て対応できるかということ、今のところは難しいと思っています。

このようなことも少しずつでも解決できる方法を考えていきたいと思っています。全て独力ではなかなか難しいのですが、よろしくお願ひしたいと思っています。

先ほどの計画の中で路線の再編の話もでてきましたが、昔のようにすべて駅を起終点にするという路線網は今の生活に合っていない部分もあるので、住宅、病院、商業施設を結ぶ路線は必要だと思いますし、準備もしています。

隣接他市でもこの秋にそのような趣旨を踏まえてダイヤ改正を計画しています。周南市についても、いくつか懸案はあるのですが、周南市ご自身で努力されている部分もありますので、それに合わせようという部分と、ご相談しながらですけれど意見を言った方が良いのではという部分があります。

もう1つの、鹿野の運賃の話ですけれども、われわれも市内部と山間部で運賃にかなりの差があることは認識しています。さまざまな事情もあり、急には解消できないかもしれませんが、周南市はもちろん他市も含め、できるところから運賃政策は考えたいと思っています。市、県、国の方々と相談し、またご報告しようと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

◎会 長 今年度皆さんにお願いするこの検討につきましては、プランの根幹をまず作っていくということです。そして来年以降、枝を伸ばしていくということで、まず今は幹をきちんとしたいと考えております。

その他、ご質問はありますか。

(質問等なし)

◎会 長 それでは、先に参ります。

3-2-2 周南市の現況と計画策定にあたっての検討課題について

◎会 長 では、議題(2)、周南市の現況と計画策定にあたっての検討課題について、説明をお願いします。

●事務局 (資料に沿って説明)

◎会 長 今の説明につきまして、何かご質問、ご意見などがありましたら、お願いいたします。

○委 員 防長交通ですが、今の話は、特に皆さん感じられているところだと思います。ただ実際のところ、山間部全てにバスを走らせることは難しく、バス停から家までの交通手段がない方もいるのです。そういう所はタクシーが必要になるため、私どもとしても悩みです。

例えば、徳山の駅から新南陽、北に上がって間上、四熊のほうに行く、中野のほうに行く、矢櫃のほうに行く、鹿野のほうに行く。そこまでは同じ経路なのに、最後は分かれている。

これについては皆様方のニーズについて、結節点間という考えもあるかと思えます。村落間の距離が長いので、途中で切ると集落が孤立してしまうという線が山ほどあるのです。そのため、周辺の部分を1つのまとまりとして乗り換えていただけたら一番合理的ではあるのです。これは周南市だけではなく、県内の他市にも提案はしています。しかし、乗り換えに対して皆さんの心理抵抗は大きい。

周南市に限らず中山間地域では、路線バスは座れなければ乗らないという方が多い。そういうことも含めると、結節点の整備というのは、バスからバスに乗り継ぐ際に、①雨露をしのげて②すぐバスが来て③しかもバスがどこにいるかわかって④少し乗り継ぎ時間が

空いたら時間をつぶせる場所がある、というのが典型です。しかし、これが周南市ではなかなか難しいのです。

先ほども申し上げましたが、徳山駅ですべての路線を切るということを今後しない系統も考えたいと思っています。徳山駅よりも東の人は徳山駅より西に行きたい、またその逆も多くあると思います。徳山駅で切っていたら乗り換える必要があり、しかも運賃がその分かかってしまいます。バスカードで20円引く乗り継ぎ割引は実施していますが、1社だけで解決できる問題ではないのです。

そういうところもあって、今ご利用の方々のニーズと、今回のアンケートでの潜在ODを踏まえながら路線を変えていきたいと考えています。

バス会社として喫緊にやらなければいけないと思うことについては、事前にご相談も提案もさせていただきます。

◎会 長 周南市にはバスとJRしかないので、公共交通網を考える場合にバスがかなりの割合を占めます。かといって、防長交通1社だけを責めるような会でもありませんし、この場でいろんなご意見、アイデア等を吸収していただければと思っております。

他に何かございませんか。

○委 員 人口が南部に集中しており、人口の少ない集落が山間部にあるということで、それは熊毛や須々万など団地のことであろうと思います。団地もどんどん高齢化が進んでいて、結局、陸の孤島のようになってしまいます。住みにくくなったので南部にマンションでも借りて移ろうかという人も増えており、いよいよ空き家が増えていると感じます。そういうことも含めて交通網を考えていきたいです。

◎会 長 熊毛は十数個の団地がありますが、開発が昭和40年代だったので、かなり年数がたっています。中山間部はもちろんですが、まちなかも随分高齢化が進んでいます。

周南市は7月末で30%の高齢率になりました。6～7年前に25%になったと聞いていたので、それから約5%進んだということで、もう避けて通れない状況です。その辺も合わせて皆さんのお知恵をお借りしてより良いものにしていきたいと思っています。

その他、よろしいでしょうか。

○委 員 人口や産業のこととか出てきたのですが、人口が減るからといって公共交通が切り捨てられるようなことがあれば、まちづくり全体に本当に影響が出るわけで、人口が減るからこそあらゆる角度で支

援していく逆転の発想も、これから先はあるのではないかと考えています。

国土交通省の方が、交通政策部及び観光部が誕生したということで、きょうパンフレットを配っていただいたのですけれども、観光資源ということでは、北部はもっと見直されなければいけない。これから次の世代にあの広大な森林や生活の魅力を伝えていくためにはどのようにすべきなのか。

私は県外から子育て世代の時に周南市の中山間部に引っ越してきたのですが、子どもが高校生になり、これは非常に大変だと感じました。実際に中山間地域でも高校は分校として残っており自転車通勤することはできるのですが、市街地や商工関係の高校を選んだ場合、大変な額のバス代がかかってしまうのです。例えば2人いる子どもがどちらも高校生だったら、かなりの家計負担になります。防長交通さんにも大変ご尽力いただいて、昔に比べ少し減額しまして、通学パスポートも発行されていると聞いています。

さらなる見方で言えば、高校生が住みやすい所はどんどん人口が増えていくのではないかと考えています。市もそこをお考えいただいて、中山間地域の見方を人口減だけでは見ないでほしいと考えています。

◎会 長 なかなか難しい問題ではあるのですが、その辺も踏まえ、次の議題3の住民アンケートの説明をいただきます。

3-2-3 住民アンケート調査の実施方針について

◎会 長 それでは、議題（3）の住民アンケート調査の実施方針について説明をお願いします。

●事務局 （資料に沿って説明）

◎会 長 今のアンケートの件につきまして、何かご質問、ご意見等がありましたら、お願いいたします。

○委 員 他の地域で5、6年程前に排気ガスの問題があり、官庁、県庁、市役所などに勤める人は公共交通を利用して通勤するよう指示が出たと新聞で読んだような気がします。そういった努力も必要なのは。

全員が実行するのは難しいかもしれないが、例えば周南市役所から10キロ圏内にいる人は公共交通を利用するという決まりを作るといえるのでしょうか。民間に委ねるよりも、まず行政から動く。

◎会 長 市としては、ノーマイカー運動というのがあります。昔は日にちを決め第3金曜日にしていました。現在そうではなく、職員が自分で実施しやすい、「エブリデイ！ノーマイカーデー」をやっています。月に2回は最低でもやりましょう、ということです。

今年から新たに、防長交通さんのご協力も得ながら、「のこのこパス」をつくりました。CO₂をなくしましょうという意味の「No！CO₂」をローマ字読みにして「NOCO」×2です。これは、毎月第3金曜日に普段マイカー通勤の方がそそのパスを持って飲み屋さんに行くと、ビール1杯無料などさまざまなサービスを受けられるパスです。50軒を超えるお店にご協力いただき、発行数はもう少しで2000枚です。地道に努力しています。

その他、何かございませんか。

○委 員 アンケートだけでは細かな意向が把握しにくい中山間地域での住民意見交換会は、これから常に開催するのでしょうか。

●事務局 この後、資料5で報告予定になっていますが、7月に1回、中山間地域検討会という意見交換会を開催させていただきました。年度内にあと2回ほど予定しています。中山間地域の課題を把握し、どのような方向性でこれから進めていくべきなのかを話し合っていたく場にしたと思います。

○委 員 市の広報で日程を知らせるのですか。

●事務局 日程等については広報でお知らせ等はしていません。各地域からそれぞれ3人程度の方にご参集いただき、いろんなご意見をお伺いしているというような検討会になっています。

○委 員 地域団体等を通して、各地域の委員の方に声がかかるのですか。

●事務局 各支所を通してです。主にバスなどの公共交通機関を使っている方を中心に集まっていたいて、いろんなご意見をお伺いしております。

○委 員 各地区にもコミュニティ組織もあれば自治連合会という組織もあるわけですがけれども、そういうまとまった意見を集めるところと連携を組むことができたらいいなと思いました。

●事務局 地域コミュニティの会長さんが出席されることもありますし、各地域でのご意見をまた検討会でいろいろと教えていただいています。

○委 員 地域にあるコミュニティが、例えば今後の公共交通についての市の考え方を聞きたいということであれば、出前講座をしていただけるのですか。

●事務局 これからということであれば、今計画を策定しておりますので、申し上げることができないこともあるかもしれませんが、今後、市は公共交通機関を利用するにあたってどういった取り組みを行っていくか、というようなお話程度ならできるかと思えます。

○委員 はい、ありがとうございます。

○委員 この場でこういうことを申し上げるのは筋違いかも知れませんが、国内で大きな社会問題になっている2025年問題というものが、10年後には団塊の世代が後期高齢者の仲間入りをするが、現在、介護医療の施設はこれを受け入れるだけの余裕はない。介護保険料も発足当時から比べて2倍以上になっているのに、依然として赤字体制となっている。ですから、最終的には地域の包括的なケアシステムでそういう問題を解消しなさいということになっているわけです。

バスの問題にしても、地域でどうやって存続を図っていくかを取り上げて検討していくということはやはり必要なのでは。もちろん、運賃や運転手の確保の問題などいろいろありますが、交通弱者はバス停に出るまでが大変なのです。利用しようにもバス停まで行けない。タクシーも都会と違ってなかなか来てくれない。

そういうことを考えれば、やはりコミュニティと接点を持って、どうやって路線を維持していくか、どうやると皆さんがバスを利用するようにするのか、その辺のことを考えることが今後一番近道の解決策ではないかと思えます。

◎会長 2025年問題につきましては、日本の社会自体が団塊の世代を中心にすべて動いていた事情があります。確かに2025年問題は非常に頭が痛い問題だと思います。支える人が少なくなっていて、支えてもらうほうが増えてきています。非常に大きい問題ですが、その中で公共交通がどういうふうな役割を果たせるかというのも検討していきたいと思っています。

○委員 まさしく、今実感しております。

ある団地にバス停ができたのですが、喜んでいるのはその近辺の人たちだけです。団地の奥に住んでいる人は、バス停まで遠くて行くのが大変です。

コミュニティや自治会が主体となり、週に何回か乗合バスや乗合タクシーを出してそのバス停まで行くなど具体的に考えてはいます。しかし、そのバス停からは徳山行きばかりで、下松に行く便がないという問題もあります。

◎会 長 その他、よろしいでしょうか。

3点ご説明いただきました、それにつきまして審議したいと思えます。今さまざまご意見がありましたので、それについては事務局に一任していただきまして、今説明した資料について修正をかけていきたいと考えています。それを含めまして、きょうの説明でご承認いただける方は挙手をお願いいたします。

(全委員挙手)

◎会 長 では、修正も含めまして事務局に一任していただきまして、より良いものしていこうと考えています。ありがとうございました。

3-2-4 自家用有償旅客運送の登録申請について

◎会 長 続きまして、議題4の自家用有償旅客運送の登録申請について、説明をお願いします。

●事務局 (資料に沿って説明)

◎会 長 今の説明につきましてご質問等がございましたら、お願いいたします。

○委 員 運行管理者、また運転士を決める基準を教えてください。

●事務局 まず、運行管理の責任者は、実証運行をしている受託先の会長さんです。運転手につきましては、大型の2種免許をお持ちの方に運行をお願いしております。

○委 員 事故が起きた場合、運行管理者が責任を取るわけですか。

●事務局 資料10ページの中ほどに事故処理連絡体制というものがございます。万が一事故があった場合については、運転手を通じて運行管理者、警察署、そして委託をしている周南市に連絡が入ってきます。責任の所在については、受託先の運転手ということもあるかもしれませんが、委託をして運行していただいておりますので、周南市にも責任が出てくると考えております。

○委 員 最終的には市長が責任を持つと。

●事務局 はい。市町村有償運送というもので、申請書の名義も周南市長で周南市が登録申請しているものですから、市が運行している運送ということでよろしいかと思えます。

○委 員 はい、わかりました。

◎会 長 その他、ございませんか。

○委 員 自家用有償旅客運送に関してですが、これは他の所にも拡大する見通しがあって大道理で実施しているのかどうかをお聞かせください。

- 事務局 大道理地区につきましては、昨年10月から実証運行という形で現在も運行しておられます。実証運行については、ことしの9月30日まで実証運行という形で、10月からこのたび許可をいただいて本格運行という形に移行する予定としております。
- その他の地区につきましても、現在実証運行している八代地区におきまして、地区内の診療所までの運行について実証運行しているところです。その他の所については、現在のところ、ございません。
- 委員 現在のところはなくても、これから先の見通しとして、他の所でも検討していくことを考えていらっしゃいますか。
- 事務局 はい。特に中山間地域において、地域の方々にご協議していただいています。バスに代わる利便性の高い運行を実施してみたいというようなお考えがある地域とは、一緒に検討し、実証運行という形を取る、ということはあるかと思えます。
- ◎会長 各地区でそういった話が出ましたら、市としても積極的に協力して実りあるものにしていきたいと考えています。
- その他、ございますか。
- 委員 車には有償の車とわかる表示がありますか。
- 事務局 運行する車両は軽自動車の箱バンで、運輸局から登録番号をいただき、その番号を車両に表示させて運行することとなっています。
- 委員 緑ナンバーですか。
- 事務局 いえ、白ナンバーでの運行ができる内容になっています。
- 委員 運転手さんの身分証の掲示はありますか。
- 事務局 実際に運行する時には車両の中に運転手さんの資格者証を表示することになっています。
- 委員 運転手さんとして採用するにあたって、こういった審査をされていますか。
- 事務局 このたび予定される方については、お2人とも大型2種免許をお持ちの地元の方ということでお願いをしており、審査は特別実施していません。
- 委員 はい、わかりました。
- 委員 公的な仕事ということで、研修を定期的に行っていますか。タクシーに研修があるように、人を乗せるのだから普通の人とは違う。なければ、そういう計画を立てる必要があるのでは。
- 事務局 運転手の方へのクレームや、対応が悪いというようなことは、こちらのほうには入っておりません。地元の方が運転され、地元の方が乗っていらっしゃいますので、特にそういったトラブルはないの

ですが、これから全域にそういった運行が広がっていくようであれば、例えば接遇などの研修は検討するようになるかもしれません。

◎会 長 その他、よろしいですか。こういった取り組みがいろんな地域に広がって行ってほしいと思います。

それでは、議題4につきまして採決を行います。ご承認される方は挙手をお願いします。

(全委員挙手)

◎会 長 ありがとうございます。それでは承認といたします。

以上で、協議事項について審議を終了いたします。

4 その他

◎会 長 次に次第4、その他、第1回中山間生活交通検討会の報告について、説明をお願いします。

●事務局 (資料に沿って説明)

◎会 長 ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等がありましたら、お願いします。

○委 員 年内にあと2回あるということですが、その地域は特定されているのでしょうか。

●事務局 徳山北部地区ということで、地区で言いますと、須々万、中須、須金、大道理、大向、長穂の6つの地区でお話をお伺いしております。

○委 員 鹿野地区はどのようなのでしょうか。

●事務局 鹿野地区につきましては、乗合タクシー「ふれあい号」が運行しております。そちらにつきましては、また別にお話を伺いながら、改善できることは改善させていただいているところです。

◎会 長 その他、ございますか。

◎副会長 中山間地域の生活交通検討会に参加された方にこのアンケートを送る、といったようなことは考えてないのですか。集まった人はもうヒアリングをしたからオーケー、ということでしょうか。

●業務委託会社 現時点では同じアンケートを配布するということは想定していません。参加された方の元にも郵送で届いている可能性もありますので、これから事務局と相談させていただこうかと思いますが、実施するとしても別の形で集計をする必要があるのかなとは思っています。

◎副会長 意見をお持ちの方が集まっているのだから、そういった方こそきっちり回答してくれるのではと思いました。できればアンケートのような形で中山間地域の意見を知るのが良いのではと、ぜひご検討をしてみてもは。

◎会 長 ありがとうございます。その他、何かございますか。

○委 員 これを見ていると、バスも便利だなあとというのがよくわかるのですが、送迎の方が非常に多いというのを感じます。家からバス停まで遠いということもありますが、例えば中央病院に行きたい場合、周陽町のバス停も、中央病院前のバス停も、結局降りてから病院に上がるのが大変なのですよね。

同じようなことは実は周南市だけではなくて他の市町でもあります。病院を改築し駐車場もきれいにした。すると大きな崖ができてバス停から階段が遠くなってしまふ。道路が改良されると幅が広くなり、交差点からバス停が遠ざかっていく。まちが施設や道路中心に改善されると、バス停はだんだん不便になっていくというような循環があります。

そういったこともこういう場で皆さんと相談していくというの、今後考えていけますか。

◎会 長 バス事業者さんの意見も出していただいていると思います。いつもお願いするばかりなので、ぜひ。

○委 員 ありがとうございます。

○委 員 この検討会に参加されるのは徳山地域の周辺部であるということをごどこかに明記しておくべきでは。山間地域といえは相当広大で、一番北部の鹿野地区や、島嶼部の大津島もあるわけです。

◎会 長 はい、資料として提出するときに、注意書きという形で表示し、この地区の方のご意見だとわかるようにしたいと思います。

○委 員 公共交通に関してこれだけの方々が参加した会議は初めて発足したと聞いていますが、鹿野地区に関しては古くから交通の要衝といわれ、山代街道が通っていました。そして今は中国自動車道が通り、以前は山口市までのバスがあったというふうに聞いています。

北部の問題に関しては、歴史的にも山口県や国の問題でもある。これだけ魅力的な美しい観光資源を持っていて、そこを中国自動車道も通っている。しかし貸し切りなのかなと思うほど車の量が少ない時もあります。中国自動車道の無料化など、中山間地域の支援に関しては、県、国を挙げて、市とともに協議していかなければと考えているので、この会はとても大事な会だと思っています。

◎会 長 ありがとうございます。

○委 員 北部地域は近くに駅がなく、バスが頼り。しかも冬に雪が降る。路面が凍結した状態でも親は徳山の高校まで子どもの送り迎えをしなければならぬ。そういう所に住んでいる人の実感というのはや

はりアンケートだけでは出てこない。特定のご高齢の方に聞いただけでも出てこない。高校生などの若い層、またその親、育児をしている親、ハンディを持っていて遠い作業所に通わなくてはいけなくなっている親に聞き取りをする。それをそのまま反映することは難しいかもしれないけれども、やはり聞き取りは大事なことかと思っています。

◎会 長 何かご意見はございますか。よろしいですか。

それでは、以上ですべての議題を終了いたしますので、ここで事務局に進行を返させていただきます。

5 閉会

- 事務局 皆様、ありがとうございました。以上をもちまして、第2回周南市地域公共交通会議を終了いたします。次回につきましては10月を予定しておりますので、委員の皆様には日程等が決まりましたらご案内させていただきます。引き続きよろしくお願いいたします。
- 本日はありがとうございました。